畜産課長岡山会

藏　知　　毅

去る１月末に全国の畜産課長会議が招集された。何気なくその顔振れを見ていると、岡山の飯を食ったことのある連中が５人も居る。全国 46 人の課長の中に岡山の関係者が６人も居ると云うことは珍らしいことである。一度集って昔話でもと思っているところへ辛島氏からその話を持ち込まれたので、早速関係の人々に話したら同意を得たので、その夜集まることにした。

集った面々は

田中　元　島根県畜産課長（昭和７―８年）
馬渡武彦　大分県畜産課長（昭和 18―30 年）
辛島　忠　茨城県畜産課長（昭和 26―33 年）
加本一久　島根県畜産課長（昭和 23―35 年）
日室　甫　広島県畜産課長（昭和 22―27 年）
（日室課長は急用のため欠席）

それに私を加えて５人である。この内田中課長は昭和の初めであるので、岡山での知人は少ないが、それでも岡山の話題は豊富であるし、後の人々は最近まで岡山に居た人々であるので、集ると懐旧談に花が咲いた。

馬渡さんは香川県から岡山に来られ、飼料関係、有畜農業関係の仕事から、昭和 24 年津山の畜産指導農場長になられ場の建設をやられ、昭和 30 年に大分の畜産課長に栄転されたのである。

辛島さんは大分県の種畜場長から、岡山県種畜場長になって来られ、三軒屋の種畜場の建設から、岡山県養鶏試験場の移転建設をやられ、辛島建設として勇名をとどろかし、試験場の完成後直に茨城県の畜産課長に栄転されたのである。

日室さんは岡山の人で押野課長時代に農林省から本県に来られ、飼料統制時代の仕事で活躍され、一時退官されたが、再び広島県で畜産畑に還られ、押野課長の後を継いで広島の課長になられたのである。

加本さんは終戦後島根県の農林省の和牛試験場から岡山へ来られ、本庁の各係長を歴任の後和牛試験長として千屋に行かれ、新講堂を建設したり、牧野改良をやったりして、大いに改革をやり、その後酪農試験場長に転じて約半年居て、鳥取県の課長に栄転されたのである。日室さん田中さんを除いて他の人はそれぞれ種畜場、試験場の建設をやった人ばかりである。

岡山種畜場は専任場長が出来てから私が２代目で藤井さんが３代目辛島さんが４代目である。

津山畜産農場は藤井さんが初代で馬渡さんが２代目、私が３代目で途中で酪農試験場になり、加本さんが４代目である。

こうやってみると岡山県の試験場からは４人続いて畜産課長が出来たことになる。これも珍らしいことかも知れない。

従って話は場の建設の話や場員の話、現在の場の姿が中心になり、なかなか面白い話が出て来た。又古い人の話では昭和の初め頃の人々から、現在までの各層の人々、その家族の話や、逸話等なかなか面白いものであったし、最近の岡山市の変化の様子、急ピッチで工事の進められている駅前の話、旅館の話から、飲み屋の話、酒の味から、食物の話、等々、久しぶりに岡山の談で懐しい時を過したのである。

各人ともそれぞれの持ち味を発揮して、相当に活躍しておられるのであるが、切角の御自愛の上畜産界の発展のために更に一層の御発展を祈るものである。

飼料価格（３月）

岡山県下平均

農林省岡山統計調査事務所調べ

―（農村物価賃金調査農家購入価格）―

品目	価格	前月比較	前月比	前年同月比
とうもろこし（輸入粒もの三七・五kg）	一、一三三円	五円安	一〇三%	
大豆粕（三七・五kg）	一、六五一	三円安	九六	
ふすま（三〇kg俵）	八三九	四円安	一〇二	
米ぬか（〃）	六三三	三円安	九七	
麦ぬか混合（〃）	七四五	一円安	九九	
育雛（二〇kg袋紙上一七%以上蛋白）	八四一	五円安		
配合成鶏用（二〇kg袋粗蛋白一六%以上）	七六二	二円安	一〇五	
〃乳牛用（三十kg袋泌乳用粗蛋白一四%以上）	九三一	横ばい	一〇六	
〃養豚用（三〇kg袋粗蛋白一四%以上）	九四八	横ばい		